

2019年6月23日(日)朝10:10～
6月第4公同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第3、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**らい病者の信仰告白(2、3節)**

聖書：マタイ 8章1～4節

<口語訳>

新約聖書10～11頁

マタイ 8章1～4節

<新共同訳>

新約聖書13～ 頁

マタイ 8章1～4節

<新改訳第3版>

新約聖書13～ 頁

マタイ 8章1～4節<塚本訳>

新約聖書86～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。

◇**マタイ8:1～4**は、「**御子イエス・キリスト様**」による「**らい病ツアラート**」の「**清め**」の出来事・奇蹟記録です。

⇒「**らい病ツアラート**」は、主に「**清め**」を求め、その願いが受け入れられました。ユダヤの習慣では、すでに「**清められた人**」でしたのに、主に「**清め**」を求めたのです。

⇒ですから、「**らい病ツアラート**」は、主の「**清め**」がなくても、群衆の中にいて支障はなく、儀式にも参加できました。ただ、「**儀式上は汚れた者**」では、ありませんでしたが、社会的には嫌われていたのです。ユダヤでは、医学的に「**らい病ツアラート**」即、「**病気・汚れ**」ですが、宗教上は、彼は全身が白かったので、「**汚れ**」の人ではなかったのです(レビ記13:13)。

本論；

◇本日、**マタイ書8章1～4節**から主の**使信**に
思い・心をとめます。

◆**マタイ8章1～4節**；使徒**マタイ**は、**神の御子
イエス・キリスト様**が「**主の権威ある者・権威
を持つ者**」として、「**らい病ツァラートの者**」を
「**清めて**」下さいました。

◇**1～4節**；塚本訳◆**癩病人を清める**

「1 イエスが山を下りてこられると、多くの群衆が
ついて来た。

2 すると一人の癩病人が近寄ってきて、しきりに
願って言った、「主よ、(清めてください。)
お心さえあれば、お清めになれるのだから。」

3 イエスは手をのばしてその人にさわり、「よろ
しい、清まれ」と言われると、たちまち癩病が
清まった。

4 イエスはその人に言われる、「だれにも言わ
ないように気をつけよ。ただ(全快したことを)
世間に証明するため、(エルサレムの宮に)
行って体を『祭司に見せ、』モーセが命じた
供え者を捧げよ。」と、**使徒マタイ**は主のこと
ばを語っています。

◇**1～4節**;先週の「自分たちの聖書学者のよう
でなく、権威を持つ者のように教えられた」と、
「**御子イエス・キリスト様**」は、語られましたが、
今日の箇所と次週の箇所では、「**権威**」を
もって、「**清め**」なされたのです。

⇒今日の箇所では、「**マタイ8:1～4**」で「**清め**」
がなされ、良い面では、**社会的障害の除去**、
悪い面では、**マルコ1:45**にある「**主の命令
無視**」です。

◆「**主の権威**」は、「**らい病ツアラーの者**」の
「**社会的障害の除去**」としての「**清め**」を与え
ました。

⇒「**らい病ツアラーの者**」は、ユダヤの宗教上は、
「**汚れた者**」ではなく、群衆の中に留まれました。
「**らい病ツアラーの者**」は、宗教上は自由
で、「**清め**」は、不要でしたが、「**社会的障害**」を
背負っていました。彼にとっては、それが
切実な問題でした。

⇒**マタイ8:2**で「主よ、(清めてください。)お心
さえあれば、お清めになれるのだから」と、
「**らい病ツアラーの者**」は言い、**マタイ8:3**で、
「わたしの心だ。きよくなれ」(新改訳2017)と。

- ⇒「お心さえ」(2)「心だ」(3)は、同じことばです。
「意志する」で、「らい病ツアラーたな者」は、「御子イエス・キリスト様」が、意志して下さればと、懇願し(2)、「御子イエス・キリスト様」も、懇願に答えて、「わたしが意志しよう」(3)と、言って、「御子イエス・キリスト様の権威」を行使して下さったのです。
- ⇒「らい病ツアラーたな者」は、「清められても、清められなくても」自由でしたが、「らい病ツアラーた」という「社会的障害の除去」が、願いだったのです。
- ⇒「御子イエス・キリスト様」は、大勢の病気や煩いの人々をご都合主義が分かっているにもかかわらず、「主の権威」をお用いになりました。
- ⇒私たちも、ご都合主義の懇願を繰り返す者です。目に見える結果を期待し、信仰に生きることが低く受け止められています。
- ⇒使徒マタイは、「らい病ツアラーたな清め」が、レビ記13～14章の預言の成就であり、「清めの小鳥の血・羊の血」が、流されることによって実現したと宣言しているのです。

◆「らい病ツアラーが清められた者」に、「**供え物・小鳥や羊**」をささげ、「**神の祭司に清め**」の事実を示し、見せるように(レビ記13:13)命じられましたが、**マルコ1:45**から「**らい病ツアラーの者**」は、だれにも話すな、祭司に見せろ、供え物をせよ、命令をすっかり忘れ、道草を食っていたのです。

⇒「**あかし**」は、大事ですが、それ以上に主の**命令に聴き従う**ことはもっと大事です。教会のご奉仕なくして教会は成り立ちませんが、主のことばに聴く礼拝はそれ以上に大事です。

⇒「**らい病ツアラーの者**」は、主に懇願し、その信仰告白を受けとめてもらいました。彼は、その時点で、主に対して、汚れた者・無資格の者でした。ですから、彼は、主におすがりするほかなかったのです。ところが恵みに与ると突端に実態を忘れ、いやされた者の立場になって、主のご意志(みこころ)を忘れるのです。

⇒すでに死人の中から復活し、天の王座に着き、求める者に聖霊を与え、これに聴けと仰せ。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
 - ◇**マタイ8:1～4**は、「**御子イエス・キリスト様**」による「**らい病ツアラート**」の「**清め**」の出来事・奇蹟記録です。
- ⇒「**らい病ツアラート**」は、主に「**清め**」を求め、その願いが受け入れられました。ユダヤの習慣では、すでに「**清められた人**」でしたのに、主に「**清め**」を求めたのです。
- ⇒ですから、「**らい病ツアラート**」は、主の「**清め**」がなくても、群衆の中にいて支障はなく、儀式にも参加できました。ただ、「**儀式上は汚れた者**」では、ありませんでしたが、社会的には嫌われていたのです。ユダヤでは、医学的に「**らい病ツアラート**」即、「**病気・汚れ**」ですが、宗教上は、彼は全身が白かったので、「**汚れ**」の人ではなかったのです(レビ記13:13)。

◇「らい病ツアラーの者」には、「**社会的障害の除去**」は、緊急の課題でした。「**御子イエス・キリスト様**」は、彼の切実な懇願を受けとめ、「**主の権威**」のゆえに、「**社会的障害**」をその身に背負って下さいました。主は、この後、十字架の死をもって、完全な贖いを完成して下さいました。

⇒**使徒マタイ**には、天(神)の国の王座に着き、それゆえ、王権を発揮されるのが見えます。

◇「らい病ツアラーの者」は、主の前では、汚れた者で、無資格な者という自覚をもって、既に宗教上は、「**清め**」に与っているのに、「**主の清め**」を懇願し、それが主への信仰告白と認められ、「**社会的障害の除去**」の恵みを得たのです。

⇒しかし、彼は、その恵みと主の命令(犠牲・礼拝と祭司への報告・証明)に聴き従うことを忘れました。

⇒「【新改訳2017】**I サム15:22** 『【主】の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。』」。